

平成27年度

清水町いきいきふるさとづくり 寄附報告書



北海道清水町

初夏の候、町民の皆様、そして本町のまちづくりに対して、ふるさと納税によりご寄附をいただいた方々におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

今年は春先に暑い日が続き、順調な天候を期待していたところですが、6月に入って雨の日が続き、記録的な日照不足に見舞われております。「梅雨のない北海道」「とかち晴れ」というイメージには程遠い状況です。農作物への影響を懸念しておりますが、今後、天候が回復して十勝の自然の恵みをいっぱい蓄えて、豊穰の秋を迎えられることを願っております。

平成22年に町民有志のまちを愛する力が結集して誕生した「十勝清水牛玉ステーキ丼」は、我がまちを代表する名物としてたくさんの方に支持していただける存在に成長しました。昨年7月に苫小牧市で開催された新・ご当地グルメグランプリ北海道 in 苫小牧において、たくさんのご来場者から支持を獲得し、3連覇を達成して殿堂入りを果たしました。各地から清水町を訪れていただいた皆様に、食と自然・風土を体感していただきながら、この町の魅力を実感していただけるものと認識しております。

さて、昨年は念願だった消防庁舎建替事業が完了し、十勝地域の市町村が連携して住民の安全と安心を守るための体制が整いました。教育分野では中学校の大規模改修や、文化センター・スポーツ施設の整備などに取組み、町民の学びを推進しています。また、保育料の第2子以降無料化の対象を拡大して子育て支援に取り組むなど、教育、福祉・医療の支援などを進めさせていただきました。

今、国を挙げて人口減少対策、地方創生に取り組んでいる中で、本町の取り組みに皆様のふるさと納税によるご支援が大きな支えとなっております。

平成27年度におきまして、皆様からいただいた寄附をここにご報告させていただきます。

あらためて皆様のご支援、ご厚情に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お礼のご挨拶といたします。

平成28年6月

清水町長 高薄 渡





清水町ギャラリー

お礼状に添えた写真の中から



(5月11日撮影、残雪の日高山脈と小麦畑)



(6月11日撮影、住宅街のそばで元気に過ごす牛)



(7月8日撮影、花で色づくじゃがいも畑)



(9月14日撮影、収穫期を迎えた十勝の豆畑)



(10月15日撮影、清水公園で見る紅葉)



(12月29日撮影、雪原に昇る朝日)



(1月14日撮影、中央公園 雪の足跡)



(1月17日撮影、冬の十勝川と日高山脈)



(3月24日撮影、雪かぶるベケレベツ岳)



(4月10日撮影、春の十勝川での釣り)

平成27年度 清水町の主な話題



4/18

町畜産研修センターで第39回清水町ホルスタインスプリングショウが開催されました。9か月未満の第1部から60か月以上の第10部まで、ホルスタイン42頭が出陳され、審査員が、体高、骨格などを評価しました。大久保大輔さんが出陳したOK エアレイド ライオネル号が、昨年に引き続きグランドチャンピオンに輝き2連覇を達成しました。

町主催のファームスクールを旧農業振興公社の畑で行いました。この事業は子どもたちが直に土に触れる体験を通じて、収穫の喜びを知ってもらうことを目的に毎年開催しています。5月14日には、快晴のもと、町内3つの保育所の園児がスイートコーンとじゃがいもを植え付け、「大きなあれ」と土の布団をかけていました。



5/14



6/6

第4回十勝若牛アスパラまつりがホクレン清水製糖工場広場で開催されました。十勝若牛のハンバーガーやアスパラサイダー、十勝清水牛玉ステーキ丼などが販売された他、アスパラ販売コーナーには長蛇の列ができて大人気。用意された炭火コンロを囲み、十勝若牛とアスパラでバーベキューを楽しむ家族連れ等でにぎわいました。

7月4日・5日、苫小牧西港北埠頭のキラキラ公園で、新・ご当地グルメグランプリin苫小牧が開催されました。前回、前々回と優勝をしていた牛玉丼は、三連覇を目指しボランティアスタッフ約50名により出展。両日とも開始前から長い行列ができ、他ブースとは桁違いの人気を集め5,063食を完売。人気度、味、コストパフォーマンス全ての部門で1位を獲得し、総合優勝を果たしました。2010年7月17日に誕生してから丸5年を迎え、今や全国区となりつつある牛玉丼は発売以来13万4,850食を販売。提供店8店には牛玉丼を求めて道外からわざわざ来る方も少なくなく、今もなお牛玉丼のファンが拡大中です。今回三連覇を達成したことにより殿堂入りとなり、次回からは審査対象外となりますが、名実ともに支持された牛玉丼が、清水町に訪れる方への魅力となっていることは間違いなさそうです。



7/4



7/5



8/8

8月8日、第37回清流まつり納涼盆踊り大会がイベント広場で開催されました。仮装盆踊りには個人の部に14名、団体の部に7団体が参加し、スーパーマリオ、桃太郎や妖怪ウォッチのキャラクターなど、華やかな衣装で太鼓に合わせて踊りが披露されました。

文化センターで第29回町民絵画展が開催されました。油彩、水彩、パステルやアクリルで描かれた一般作品49点、幼稚園、保育所の園児が描いた花火や運動会などの個性豊かな作品207点が展示され、細かな描写をのぞき込むように眺める姿が見られました。また、来場者による「文化会館賞」の投票も行われました。



9/5



10/10

新消防庁舎落成記念式典及び清水消防団創設100周年記念式典が行われました。1914年に公設人舞消防組が発足以来、地域の安全を守り続けた清水消防団が、今年100年の節目を迎え佐藤幸一団長は「団100年の歴史と誇りを胸に、一致団結してこれからも任務を果たしていきたい」と式辞を述べました。

「全道高校演劇発表大会」が北見市で行われ、清水高校演劇部が初の最優秀賞を獲得し、来年8月に広島県で開かれる「全国高校総合文化祭」への出場が決定しました。

演目はオリジナル作品「その時を」パントマイムを用いた演出が高く評価されました。



11/13



12/20

第九のあゆみ展が文化センターで開催されました。1980年の第1回から5年毎に開催され、7回行われた第九演奏会のあゆみを振り返り、写真や新聞記事、パンフレットが展示されたほか、映像放映も行われました。オープニングに清水高校3年生が、18日には清水幼稚園年長児が第九を合唱し、20日にせせらぎ合唱団が最終日を締めくくりました。

第37回全十勝チビッコアイスホッケー御影大会がアイスアリーナで開催されました。A級の部では、清水御影アイスホッケー少年団が、持ち味のスピードと底力で優勝を果たし、この大会5連覇を達成しました。また、C級の部では、清水御影アイスホッケー少年団チーム及び清水・浦幌・音更連合チームが出場し、それぞれブロック優勝を果たしました。



1/16



2/1

幼児芸術鑑賞会が開催されました。この事業は、子どもたちが芸術文化に触れる貴重な経験として毎年開催されており、今回はスクリーンに映し出された絵本「ブレーメンの音楽隊」を、岡村明美さんのナレーションに加えトラベル・プラス・クインテットと青山政憲さんによる演奏とともに鑑賞したほか、曲に合わせて一緒に歌って踊って楽しみました。

御影中学校で認知症サポーター養成講座が行われました。講師は社会福祉法人清水旭山学園せせらぎ荘の小林博之さんが務め、3年生を対象にスライドを使いながら、認知症の症状などをわかりやすく説明しました。生徒達は、もし家族でそのような症状が見られたら、あたたかく手を差し伸べ、早く治療することが重要だということを実感していました。



3/7

清水町のあゆみ

北海道十勝平野の西部に位置する清水町 ― 西には季節ごとに彩りを変える『日高山脈』の山々が、東には大雪山系トムラウシ岳から注ぐ『十勝川』が滔々と十勝平野を流れ、山岳と平野を流れる川、そして田園のコントラストが、北海道・十勝ならではの特徴ある景観を形成しています。

清水町の開拓は、第一国立銀行創設者である渋澤栄一子爵が熊牛地区に創設した十勝開墾合資会社によって始められました。明治 31 年 4 月に越前地方から入植した 26 戸 99 名を皮切りに、熊牛原野と呼ばれたこの地区に順次入植が進められました。その後百二十年近く経過し、現在は、人口約 9,600 人、農業産出額約 270 億円を有する酪農と畑作を基幹産業とした町になっています。

開拓が進むとともに、次第に集落が形成されていき、明治 36 年には人舞村外一カ村戸長役場が設置されました。明治 40 年の農家戸数は 666 戸、1 戸あたりの耕地面積は 3.89ha となりました。現在と比べると 10 分の 1 ほどですが、主にキビや豆類、馬鈴薯、そばなどを生産し、特に当時の主食として消費されていたキビは、当時の村の人口 2,220 人に対し、2,600 人分の食糧に相当する量を生産していたそうです。

清水町の市街地に電灯が灯ったのは大正 8 年ですが、電力を供給する水力発電所の建設に対し、議会は当



初「将来の水田造成に必要な水資源が不足する可能性がある」と反対の意思を示していました。この当時、住民の暮らしにはランプが明かりとして使われ、高い電気代を払ってまで電灯をつけなくても良いという時代でした。その後、大正 10 年には電話が開通しますが、役場や商工業者など、加入したのはわずか 82 戸で、一般世帯への普及はかなり後になってからでした。

昭和 31 年 10 月 1 日、御影村との合併により、3,079 世帯、17,945 人の「新」清水町が誕生しました。町村合併促進法は、人口 8,000 人未満の町村の行政の効率を高め、財政力を豊かにし、住民福祉の向上を図ることを目的に合併を進め、全国の 1 万近い自治体を 3 分の 1 に減らそうというものでした。当時人口は 5,335 人、戸数 856 戸の御影村はその対象となっており、「北海道町村合併促進審議会」などにより、御影村は清水町との合併を第 1 案として提示されていました。しかし、大正 10 年に芽室から分村した御影村は、清水町とは歴史的、経済的つながりは薄く、御影村民は合併反対派が多数を占めていました。十勝支庁の合併勧告、指導もあり様々な障壁を乗り越えての合併でした。

合併後の昭和 30～40 年代は、日本全体が高度成長の黎明期でもあり、住民の暮らしも便利で

快適な様々な整備が進み、豊かさを実感できる基盤が整い始めた時期です。清水町でも、道路・橋梁、保育所や学校、公民館などの公共施設の新築改築などを進めました。

昭和 50～60 年代は各小学校の新築や清水町文化センター、日勝スキー場、町民水泳プール、老人福祉センターなどが建設され、現在の清水町の姿が形づくられた時代です。

平成 3 年に策定した「森と水の郷づくり基本構想」は、清水町のもっとも大きな財産である自然を大切に、森や水を守り育て、自然と人とのかかわり合いを深めながら、活力と潤いのある地域を創造することを基本理念にしています。

平成 18 年 4 月 1 日、清水町の町政運営について基本的な事項を定める「まちづくり基本条例」を施行しました。この条例の施行により「情報の提供と共有」を柱に「町民誰もが参加する協働のまちづくり」を推進し「町民憲章」が掲げる理想のまちをつくることを目標として町政運営を行っています。

また、平成 23 年度から平成 32 年度までを計画期間とした清水町まちづくり計画（第 5 期総合計画）では「みんなで生き生き 豊かさ育むまち とかしみず」を将来像とし、町民みんなが参加し支え合い、活力と元気にあふれ、健康で安心して暮らせる豊かなまちを目指して、まちづくりを推進しているところであり、平成 27 年度は、子育て支援施策の新設、拡充、保健福祉事業の充実に取り組みました。



（芽室岳頂上より日高山脈を望む）

寄附の概要

『清水町いきいきふるさとづくり寄附条例』の制定から 8 年目となる平成 27 年度は、3,430 名の方々から総額で 54,454,500 円の寄附をいただきました。

(1) 第九のまちづくり事業	159 件	2,170,000 円
(2) アイスホッケーのまちづくり事業	176 件	3,770,000 円
(3) 次代を担う子どもたちの健全育成事業	1,129 件	18,653,500 円
(4) 森と水・景観の保全事業	702 件	10,085,000 円
(5) 花で彩るまちづくり事業	78 件	1,095,000 円
(6) 指定なし	1,192 件	18,681,000 円
合計	3,436 件	54,454,500 円

※一度に複数の事業に対し寄附できるため、人数と件数の合計は一致しません。

また、開始からの累計額は以下のとおりです。

(1) 第九のまちづくり事業	167 件	2,754,000 円
(2) アイスホッケーのまちづくり事業	220 件	11,225,000 円
(3) 次代を担う子どもたちの健全育成事業	1,148 件	19,736,816 円
(4) 森と水・景観の保全事業	711 件	11,540,000 円
(5) 花で彩るまちづくり事業	85 件	1,347,158 円
(6) 指定なし	1,233 件	22,474,140 円
合計	3,564 件	69,077,114 円

寄附者の方々（敬称略・順不同）

◆ 600,000円

原 幸一郎

◆ 300,000円

小見 宰

◆ 200,000円

牧野 俊信、今村 大利、原 周平、君島 裕、加藤 誠一

◆ 150,000円

原 正子、原 拓平

◆ 150,000円未満100000円以上

良盛 典夫、宮内 修平、高坂 久夫、高石 康子、高石 治一郎、今村 大利、
佐藤 美知雄、小泉 晃志、杉森 四郎、檜山 孝美

◆ 50,000円

異島 洋、原 有佳里、古川 文将、胡 新輝、黒田 功、織本 幸、新谷 義行、
西堀 篤史、青木 佑輔、大塚 淳、國府 正秀、檜山 孝美、齊藤 暁子、
齊藤 雄大、高橋 高志

◆ 30,000円

井上 裕司、加藤 健、笠井 厳祐、高橋 誠志、佐藤 安彦、坂井 典孝、
天野 慎士、富重 博、林 栄喜、廣瀬 きみ江

◆ 20,000円

阿部 裕之、 安田 正敏、 安満 肇之、 伊藤 勝通、 一楽 暁彦、 永岡 信敏、
 遠藤 幸子、 遠藤 誠、 加知 光康、 加藤 衛次、 河野 茂、 丸山 洋昭、
 吉川 タカ子、 笈川 信一郎、 橋本 大佑、 玉川 正毅、 金田 友記、 栗山 一希、
 古田 博文、 荒川 三櫻、 高岸 秀俊、 高橋 正純、 高橋 道幸、 高松 芳明、 高野 真、
 佐藤 正人、 坂 浩司、 坂ノ下 和弘、 阪田 武志、 三浦 茂人、 秋吉 寛信、 小見 幸、
 小谷 文人、 小島 敦、 小林 諒、 松永 有史、 松崎 恵理子、 松重 和美、
 松本 哲朗、 松本 脩、 植村 仁郎、 森 伸晃、 真多 淳二、 神谷 英司、
 水戸部 大輔、 菅野 一之、 清水 顕、 清水 直樹、 西村 哲弥、 青山 明彦、
 石合 義則、 千田 茂、 泉谷 忠宏、 前田 禎之、 村瀬 剛、 大須賀 慎也、 中原 淳、
 中野 健司、 長谷川 敏明、 塚田 毅史、 辻畑 泰伸、 島田 雅胤、 八木 一郎、
 板野 美幸、 飯田 知弘、 肥田 明義、 苗加 充彦、 浜田 俊、 武田 孝、 武田 泰幸、
 福原 研一朗、 福田 賢一、 本多 基記、 妹尾 安裕、 網倉 博、 鈴木 文徳、
 檜山 孝美

◆ 20,000円未満10,000円以上

田中 邦和、 林原 令子、 帯広信金清水ブロック、 阿久根 竜大、 安福 浩明、
 伊芸 秀一、 伊藤 賢一、 伊藤 信博、 伊藤 忠弘、 井上 孝則、 井上 弘子、
 井浪 勇児、 磯貝 哲、 磯部 雅仁、 臼井 正一、 永田 幸彦、 永田 幸彦、
 益田 仁志、 越田 睦代、 遠藤 幸子、 遠藤 友樹、 塩田 圭司、 塩田 尚人、
 奥谷 明芸子、 奥津 浩一、 岡 優弥、 岡部 静也、 岡本 純子、 岡本 勝、 岡本 篤、
 岡本 和久、 加藤 寿、 加藤 博樹、 河西 一智、 河目 要一、 海鉾 隆志、
 海老沢 英樹、 笠井 俊宏、 笠井 俊宏、 笠井 俊宏、 梶 泰子、 干場 敬三、 関山 卓、
 丸谷 謙介、 丸谷 淳、 岸田 優俊、 岸本 実、 岩井 勉、 岩崎 美紀、 岩垂 史兼、
 岩田 俊樹、 岩田 尚顕、 岩田 人美、 岩本 泰裕、 岩渕 恵都子、 喜多 哲二、
 鬼頭 和也、 吉井 勇、 吉岡 賢一、 吉川 浩平、 吉田 征一、 吉田 智也、
 橘内 宣隆、 久松 元大、 久米 治雄、 久留宮 直樹、 宮田 盛蔵、 宮部 俊行、
 近藤 康介、 近藤 和男、 金井 宏明、 金子 宏、 金子 泰久、 金森 浩樹、
 金村 進介、 金田 武士、 熊谷 哲也、 熊谷 茉莉香、 原田 昭太郎、 原田 泰人、
 原田 學、 玄田 智、 古瀬 晋吾、 後藤 隆、 江下 笑理、 綱澤 修二、 荒井 正義、
 荒井 正義、 荒井 正義、 高橋 秀人、 高橋 大介、 高山 勇人、 高森 伸樹、
 高木 俊明、 高木 晴代、 高木 晴代、 黒崎 毅史、 今野 貞弘、 佐久間 一浩、
 佐久間 一浩、 佐々木 安奈、 佐竹 勝一、 佐藤 寛士、 佐藤 寛士、 佐藤 公俊、
 佐藤 公俊、 佐藤 浩、 佐藤 克之、 佐野 直哉、 最上 恒平、 斎藤 一矢、
 斎藤 甚一、 阪本 寛、 笹瀬 真里奈、 笹川 和志、 三戸 聡、 三村 大悟、 山口 剛、
 山口 惣一、 山上 晋一郎、 山上 晋一郎、 山川 孝志、 山村 千佳、 山村 辰二、



山田 景子、 山本 秀二、 山本 清作、 山本 莊太郎、 山本 哲也、 山本 哲也、
 山本 哲也、 山本 徳房、 山本 徳房、 山野辺 玄、 山邊 雅美、 志賀 公斗、
 寺田 賢司、 寺田 征紀、 寺田 聡史、 柴崎 八重、 柴谷 直明、 柴田 康宏、
 柴野 浩志、 種村 理恵、 種村 理恵、 重松 亨、 出口 裕之、 小杉 愛子、 小池 覚、
 小島 敦、 小島 敦、 小椋 隆史、 小林 宏至、 小林 誠、 小澤 佳広、 松岡 義久、
 松島 悠友、 松本 正司、 松野 祥彦、 沼田 幹、 沼田 幹、 照井 智将、 上谷 智雄、
 上谷 智雄、 上野 孝、 上野 剛嗣、 上林 孝之、 植木 勇登、 新谷 義行、
 新田 真奈美、 森 研二、 森川 まり、 森川 肇、 森田 健一、 森本 太郎、
 深山 正俊、 真庭 和之、 神 江里、 神矢 孝一、 須波 貴、 垂水 保貴、 水口 麻生、
 水野 やよい、 杉浦 弼、 杉山 学、 杉本 浩之、 菅 雄二、 菅原 知彦、 菅沼 洋人、
 勢島 淳生、 星川 英司、 生方 文、 西口 徹、 西村 康明、 西村 剛幸、 西田 充彦、
 青山 右示、 青山 剛士、 石井 成幸、 石丸 哲也、 石橋 和人、 石黒 久也、
 赤堀 聡彦、 赤澤 康彦、 折田 芳和、 千田 茂、 千葉 大輔、 千葉 敦史、
 川崎 貴裕、 川崎 貴裕、 川上 英理子、 川上 裕美、 川村 裕二、 川池 遼、
 川島 喜代次、 川北 隆一、 浅井 行孝、 浅野 重樹、 船引 孝次朗、 前川 幸司、
 前田 浩輝、 前田 大介、 前畑 康生、 前坊 義正、 倉島 由岐、 増子 薫、
 増子 尚之、 村井 哲平、 村田 昌之、 村木 久也、 村木 茂、 太田 一馬、
 太田 剛浩、 大塩 健一、 大館 満、 大見 真也、 大森 康由、 大西 摂雄、
 大石 明人、 大川 章、 大川 通明、 大内 中、 大木 了、 大澤 智子、 沢田 瑞穂、
 谷 智広、 丹澤 仁、 池戸 幸一、 池田 嘉人、 池田 庸夫、 竹山 康宏、 竹谷 奈保、
 茶谷 史弥、 茶谷 誠、 中西 一成、 中川 晋一、 中村 嘉一、 中村 嘉男、
 中村 健介、 中村 俊文、 中村 奈保子、 中谷 聡、 中島 聡、 仲宗根 英子、
 陳 菊枝、 津金 佳子、 塚原 忍、 塚本 裕行、 辻野 貴志、 堤 俊太郎、 天野 高行、
 天野 秀雄、 天野 俊樹、 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、
 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、 田原 剛、 田中 一郎、 田中 克憲、
 田中 邦裕、 田畑 俊徳、 渡辺 一令、 渡邊 圭祐、 渡邊 松己、 登尾 大地、
 藤巻 裕二、 藤巻 裕二、 藤村 幸吉、 藤村 幸吉、 藤本 圭司、 藤本 和弘、
 陶山 康道、 堂守 貴志、 徳田 圭晃、 内田 英志郎、 南谷 幸宏、 二階堂 増彦、
 日比野 暢、 波多野 哲平、 馬見 知大、 白石 佳子、 畑 哲夫、 畑 利夫、
 八木 タツ、 八木 優幸、 伴野 博之、 伴野 博之、 板倉 俊介、 板本 淳、
 飯沼 一丈、 飯田 和正、 尾崎 和彦、 尾身 武、 尾杉 ひとみ、 疋田 貴之、
 菱谷 誠二、 富永 大悟、 武山 英明、 武藤 圭太郎、 服部 未来、 福田 貫志、
 福田 賢一、 福本 浩一、 福澤 守登、 平 和弘、 平松 央、 平川 聖也、 平田 さち、
 平田 寿治、 平澤 陽子、 米谷 祐文、 北岡 直樹、 北村 朗裕、 北嶋 豊、
 北野 博之、 本郷 明理、 末広 和敬、 箕浦 弘孝、 明東 徹、 茂田 明代、 孟 琦、
 木下 哲士、 木場 健、 木村 美穂、 木村 洋朗、 木村 眞理子、 木幡 徹、
 木澤 卓嗣、 目加田 篤、 門前 翔平、 柳 英文、 柳田 剛弘、 柳澤 拓人、 遊作 篤、
 劉 学亮、 林 みちよ、 林 巧、 鈴江 綾子、 鈴江 和俊、 鈴木 貫、 鈴木 規行、
 鈴木 淳也、 鈴木 猛、 鈴木 裕之、 國方 浩司、 廣瀬 裕一、 檜山 孝美、
 櫻井 一郎、 櫻井 麻理子、 濱田 明子、 齋藤 健二、 齋藤 健二、 齋藤 敦、 瀨瀬 睦、
 齊藤 要一、 齊藤 要一、 齊藤 要一、 齊藤 良玄

公表希望者	505 名	9,634,000 円
非公表希望者	2,925 名	44,820,500 円
計	3,430 名	54,454,500 円

※ ここには、お申込み時にお名前の公表についてご了承をいただいたご寄附分を掲載しています。

清水町いきいきふるさとづくり寄附

清水町の文化芸術活動は、大正時代まで遡り、多くの団体やサークルが多種多様な活動を続けてきましたが、その集大成が、昭和55年の清水町文化センターのこけら落としとして開催された「第九演奏会」と言えるでしょう。町民204人の合唱は、全国に「第九のまちしみず」としてその名が広く知られるようになりました。それ以来、5年ごとに開催されて



おり、また平成14年に開町100年を記念して開催された「第九フェスティバル」では幼稚園から全小・中学校、高校、社会人の参加団体、全員が原語による合唱を行うなど、「文化のまち」をキーワードとしてまちづくりを進めております。

町民の文化に対する情熱とエネルギーは、昭和55年から約30年を経過してもなお連綿と受け継がれ、平成22年12月5日には第7回となる演奏会が開催されました。

本町の特徴的なまちづくりとしてのアイスホッケーは、昭和7年、御影小学校の教師だった加藤光也氏が池をスケートリンクにして、子どもたちに教えたのが始まりといわれています。

昭和13年には御影小学校の先生を集めてアイスホッケーのチームをつくり帯広大会に遠征するまでになりましたが、戦争の時代に入り一時期立ち消えとなりました。昭和24年、加藤先生は御影中学校の校長として赴任し、グラウンドに陸リンクをつくり再びアイスホッケーの活動が始まりました。

平成4年、町村では全国初めての屋内リンク「清水町アイスアリーナ」を建設し、清水高校アイスホッケー部は平成17年インターハイで準優勝、平成20年北海道高等学校アイスホッケー選手権大会で優勝を果たすなど、「アイスホッケーの町清水」を全国に発信しています。



また、まちづくりの基軸のひとつとして「教育」があり、本町は一人ひとりが、いきいきと輝く創造性豊かなまちづくりを推進しています。

次代を担う子どもたちが、健やかで伸び伸びとたくましく生きる力を育む環境を整備するとともに、一人ひとりの町民が心豊かに生きがいを持ち充実した生活を送るための学習環境や活躍の場の拡充に努め、創造性豊かな地域社会の実現を目指した人づくりを進めています。

全国に先駆け平成15年5月に、構造改革特区で「文化のまちの心の教育特区」が認められ、町単費による教員を配置し小学校1～2年生を1学級20人程度の少人数学級を実施し

ています。

いきいき輝く人づくりを理念とする少人数学級は、個に応じたきめ細やかな指導の充実により子供たちの学ぶ意欲は向上し、集団の中で個性を伸ばし、自分を見つめ直し、感情をコントロールして他者との関係を調整することのできる秩序感覚の育成など様々な教育的効果が成果として上がってきております。

平成18年4月に「しみず教育の四季」を宣言し、厳しくも美しい本町の四季を通じて、家庭、学校、地域が相互に連携し、新しい時代をきり拓く子どもたちを、家庭、学校、地域が「12の窓」から心を合わせて守り育てることによって、教育への関心を高め、それぞれがかかわり、何ができるのかを考えて行動する取り組みを進めています。

これらの本町がこれまで取り組んできた様々な施策について、町民や清水町出身者、本町にゆかりのある方が、寄附という行為によりまちづくりに参画し、寄附者の意向が反映された事業を推進することで、第九演奏会やアイスホッケーをはじめとする特色あるまちづくりを更に進めたいと考えております。

また、ふるさと納税制度が実施されたことにより、寄附条例を制定し、本町の特色を政策メニューで示すことで、寄附の意向を持つ方に対するアピールができ、寄附金は地方交付税の減少など逼迫する財政状況の中、新たな財源としてまちづくりへの展開が図られるものと考えています。

清水町まちづくり計画の位置付けについては、寄附金による事業の実施が町民参加の促進や、健全な財政運営の一助となる視点から、第5編「みんなで創る協働のまちづくり」第1章「町民誰もが参加する協働のまちづくり」の中の施策として「一人ひとりがお互いに尊重し、それぞれの立場で自主的にまちづくりに参加します。(町民)」と記載されております。

また、町内の商店等20箇所のご協力をいただき、寄附された方が協賛店で買い物などの際に特典が受けられる「ふるさと応援会員」事業を行っておりますが、平成26年度には、新たに感謝の意を込めまして本町の魅力のある特産品の贈呈を開始し、平成27年度は更にたくさんの方に特産品をお送りするよう、内容の充実を図っています。

いきいきふるさとづくり寄附では、政策メニューとして5つの事業を掲げておりますが、皆様より寄附を受けるためには、寄附を受けるにふさわしい行政運営が求められるものであり、本町の人材や自然、地域が醸し出す雰囲気など魅力を高める継続的な努力を続け、多くの方が暮らしてみたいと思う清水町づくりを進めたいと思っています。

今後のまちづくりにおいても、それぞれが基軸のひとつとして重要な施策であり、寄附をいただくことによって、寄附者が事業に関わることとなり事業実施者（町民等）との連帯感の醸成を図って行きたいと考えています。



基金を活用して行う事業

積み立てた基金は、寄附者の指定する次の事業に活用されます。



(1) 第九のまちづくり事業

1980年に清水町文化センターのこけら落としとして開催した「第九演奏会」以来、第九を本町のまちづくりの基軸のひとつとして、関連する様々な事業を行っています。

演奏会や合唱祭の開催、からくり時計の維持など、第九に関連する事業に活用します。



(2) アイスホッケーのまちづくり事業

アイスホッケーによる青少年の育成や異世代の交流は、本町のまちづくりの特徴です。幼児、小中学生、高校生、一般のチームの育成強化や各種大会の開催、出場への支援などに活用します。



(3) 次代を担う子どもたちの健全育成事業

子どもたちが心身ともにいきいきと学び、遊べる環境づくりや、地域全体で育てていく環境づくりを行います。

具体的には、少人数学級の推進、児童図書の充実、放課後子どもプランの実践、地域の見守り活動の支援、子育て支援事業の充実などに活用します。



(4) 森と水・景観の保全事業

日本の食糧基地である十勝・清水町での安全で安心な農業の推進や、本町の森やきれいな水を守る活動を行います。

レクリエーションの森の整備、きれいな水を守る環境の保全、クリーン農業や安全・安心な農業の推進、桜並木や農村風景の維持保存などの活用を想定しています。



(5) 花で彩るまちづくり事業

町内を花で飾り、来町する方々へのおもてなしの心を表現します。

具体的には、シーニックバイウェイ「十勝平野・山麓ルート」沿線への植栽や、町内各所の花壇の整備、公共空間への植栽などに活用します。

平成 27 年度基金を活用した事業

○アイスアリーナ整備

アイスアリーナは、アイスホッケーのまちをアピールする象徴として平成 4 年 12 月にオープンし、幼児、小中学生から一般まで幅広く利用されています。平成 27 年度は、利用者への施設環境整備として、玄関前に風除室を新たに設置。またルール改正によるブルーライン位置の変更によるラインの塗り替えを行い、基金より 1,026,000 円を充てさせていただきました。



○赤ちゃん絵本、ブックスタート

町として、子育て支援事業、親子の絆を深めるきっかけ作りとして行っている「ブックスタート事業」があります。これは、赤ちゃんとその保護者に絵本や子育てに関する情報などが入ったブックスタート・パックを手渡し、絵本を介して心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。そこに新たにオリジナル絵本となる「清水のたべものあいうえお絵本」を制作し、赤ちゃんへプレゼントするという取り組みが加わりました。そこで、平成 27 年度はオリジナル赤ちゃん絵本とともに、ブックスタート事業の絵本等の購入費全体について基金より 285,000 円を充てさせていただきました。



○第九文化継承

昭和 55 年、清水町文化センターのこけら落としにベートーヴェンの交響曲第九演奏会は、声楽を学んだ者や一流の合唱団しか歌うことができないと言われてきた第九の常識を覆し、ほとんどが素人の清水町民の合唱団が結集した歓喜の魂の歌が多くの人たちに感動を与えました。今まで培われてきた、清水町の誇りである第九の文化、精神性を、次世代へ継承していくために、また多くの町民が第九を身近に感じられるような「新たな第九」の在り方・方向性を見据えた事業を推進するため、基金より 271,000 円を基金より充てさせていただきました。



ご寄附への感謝を込めて ふるさとブランドとかちしみず

北海道清水町まちづくりにご寄附をしていただいた方に、この土地で育まれた特産品をお届けしています。十勝平野の豊かさをたっぷりと蓄えた農産物に、地元の生産者の技術とこだわりで作上げた品々の一部をご紹介します。(参加事業所につき各一点の特産品をご紹介します。この他、全部で40品目の特産品をご用意しています。詳しくは、清水町役場企画課にお問い合わせください。)

◇ふるさとブランドとかちしみずは、町独自の認証基準により審査・認証した清水産農産品です。

◇ふるさと納税のお礼は、認証された物産の中から、皆様にご案内しています。

◇認証された物産は、ご紹介の品以外にもたくさんあります。現在、24事業所、123品目が認証されています。



あすなろ乳製品ギフトセット

化学肥料や農薬を使わない広々とした放牧地で、のびのびと健康に育てた牛から搾った牛乳を、本来の風味を保つ低温殺菌で生産した乳製品の詰合せです。

1万円以上のご寄附でお送りするセットでは、牛乳、手造りバター、のむヨーグルト、農園のムース、瓶プリンなどバリエーション豊かなおいしさをお届けします。

有限会社 あすなろファーム TEL 0156-62-2277



牛とろお楽しみセット

健康な土から採れた安全な餌で育つ、ボーンフリーファームの健康な牛たち。こだわりの牛肉を独自の工程で牛トロフレックに仕上げます。

1万円以上のご寄附でお送りするセットには、「牛とろフレック」のほかに「牛とろろステーキ」、お酒のおつまみにもなる「牛肉のからすみ」を詰め合わせました。

有限会社 十勝スロウフード TEL 0156-63-3011



北海道十勝熟成黒にんにく

地域のバイオマス（有機物）を活用した完熟たい肥ペレット「しみず有機」を使い、十勝清水の豊かな実りを丹念に育んだ、栽培からこだわった「十勝清水にんにく」を自然発酵・熟成させて黒にんにくを製造しています。

1万円以上のご寄附でお送りする、無添加、自然発酵、長期熟成により製造した健康食品です。

十勝清水町農業協同組合農産課 TEL 0156-62-2131



生ラム肉（サフォーク種）

直営の牧場で、子羊の誕生から飼育、加工、販売を一貫して実施。当牧場の草だけで育てられた羊は、脂肪分が少なくあっさり。生後1年以内に加工される生ラムは、大変やわらかく臭みもほとんどありません。

1万円以上のご寄附で、焼き肉用、しゃぶしゃぶセットのいずれかをお選びいただけます。（写真はしゃぶしゃぶセット）

有限会社 恵愛(美夢亭) TEL 0156-62-5033



選べる十勝清水ふるさとセット

十勝清水を代表するロングセラー商品を自由に組み合わせる、とちろ清水ふるさと直売所がお勧めするセット商品です。

1万円以上のご寄附で、常温便は6種類の中から3品を、クール便は7種類の中から4品を選んでいただきます。（写真はクール便です）

とちろ清水ふるさと直売所 TEL 0156-62-1772

※ 事業所によっては、上記のセット以外の組合せの特産品もご用意しています。



ひとまい牛

日高山脈の清らかな伏流水、きれいな空気の中で糖蜜を加えたオリジナルブレンドの飼料を食べ育った「ひとまい牛」は、旨みと甘みがあり、有名百貨店でバイヤーにも認められた注目の牛肉です。

2万円以上のご寄附でお送りするセットは、ヒレステーキ、ロースステーキ、ローストビーフほか盛りだくさんの内容で存分に味わうことができます。

清水ドライフイン十勝亭 TEL 0156-62-4121



十勝アルプス牧場 ふるさとアイスセット

放牧畜産基準認証制度の認証第1号を取得した実践牧場で飼育される希少なブラウンスイス牛の生乳を使用し、高タンパクで濃厚、後味あっさりのアイスが楽しめます。

1万円以上のご寄附でお送りするセットは、プレミアムアイス、バニラアイス、クリームチーズアイス、あずきアイスの4つの味を楽しめます。

十勝アルプス牧場 TEL 0156-62-3327



佐藤さんちの神居牛

(株)佐藤育成牧場は飼養技術の高さから4月開催の全十勝肥育牛馬共進会及び11月開催の全十勝肉畜共進会 交雑牛の部にて双方12回連続チャンピオン賞を受賞し、誰もが認める牛を生産し続けております。

2万円以上のご寄附でお送りするローススライスは、鮮やかな霜降りとまろやかな風味を併せ持ち、大変やわらかく神居牛の品質の良さをご賞味いただけます。

株式会社 佐藤育成牧場 TEL 0156-62-5586

※ 事業所によっては、上記の寄付金額以外の設定額に応じた特産品もご用意しています。



トラウトサーモンと有機農産物加工品の詰合せ

清水旭山学園のトラウトサーモンは、薬品を一切使用せず育成しています。とうもろこしは、自家圃場で農薬と化学肥料を一切使用せず、木炭と堆肥のみで栽培。一番甘みがある朝取りで、その日のうちに加工します。

2万円以上のご寄附でお送りするセットは、トラウトサーモンのスモークとフィレ、ゆでとうもろこし、山わさび醤油漬けのバラエティに富んだ内容です。

社会福祉法人 清水旭山学園 TEL 0156-63-2134



十勝ブラウンスイス

北海道に約1,200頭しかいないブラウンスイス牛は、赤身のうまみときめ細やかで、くさみが少ないのが特徴です。国の「農場 HACCP」認証のクリーンな牧場で育てた、安心・安全な牛肉をどうぞご堪能ください。

2万円以上のご寄附でお送りするセットは、王様部位の「サーロイン」とうまみたっぷりの「肩ロース」をお召し上がりください。

有限会社 コスモス TEL 0156-63-2080



鳥せい本店の若どり炭火焼き、から揚げセット

使用する若どりは、十勝の契約農場で、細かな独自の基準を守り、非遺伝子組み換え飼料のみを使用し、獣医師、食鶏検査員などを配置し、万全の体制で飼育しています。

2万円以上のご寄附でお送りするセットは、長年の職人技で焼き上げる、若どり炭火焼きとから揚げのセットを真空パックでお届けします。

株式会社 鳥せい本店 TEL 0156-62-2989

※ 事業所によっては、上記の寄付金額以外の設定額に応じた特産品もご用意しています。



ドライブインいとうの十勝豚丼セット

十勝を代表するどんぶり、豚丼。豚肉を甘辛い醤油ベースのたれで焼いてご飯に載せる独自のスタイル。30数年前から社長が試行錯誤して独自の製法で作上げた自慢のたれ。

2万円以上のご寄附でお送りするセットは、自慢のたれとサシが程よく入った本ロースの豚肉に薬味をセットし、ご家庭で十勝の味を楽しめます。

ドライブインいとう清水本店 TEL 0156-62-5141



十勝千年の森 ナチュラルチーズ・ヤギチーズセット

十勝千年の森チーズ工房は手作りにこだわった小さな工房です。広大な牧草地に放牧されたヤギのミルクで作られたとっても珍しいチーズは、爽やかな酸味ときめ細かな口溶けが特徴の季節限定品です。

2万円以上のご寄附でお送りするのは、ヤギチーズの十勝シェーブル炭、牛乳100%のはおび、雪むし、北海道No.1長〜くさけるチーズ、ランラン♪ラクレット、牛鐘の充実セットです。

有限会社 ランラン・ファーム TEL 0156-63-3000



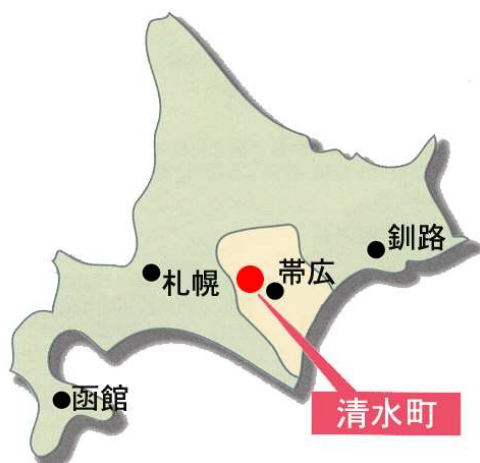
十勝若牛®詰合せ

「十勝若牛®」は、霜降り（脂肪）の旨味により品質を決める和牛とは違い、「約14ヶ月」という独自の肥育期間により、脂肪が少ない柔らかな肉質と肉汁溢れる赤身肉の豊かな旨味が特徴の牛肉です。

2万円以上のご寄附では、十勝若牛のロースステーキ、切落しスライス、ローストビーフ、ハンバーグのセットで、いろんな楽しみ方ができます。

株式会社 十勝清水フードサービス TEL 0156-62-1129

※ 事業所によっては、上記の寄附金額以外の設定額に応じた特産品もご用意しています。



清水市街

御影市街



〒089-0192

北海道上川郡清水町南4条2丁目2番地

清水町役場企画課統計企画係

TEL 0156-62-2114

FAX 0156-62-5116

e-mail kikaku2@town.shimizu.hokkaido.jp